



50th Anniversary Sister City Affiliation of Kutchan and St. Moritz 倶知安・サンモリッツ姉妹都市提携 50 周年記念



(上段左から)
アスプリオン市長、ルミナティ副市長、
ステヒャー シティマネージャー
(下段左から)
ウルファー局長、ピロウ局長、シャフナー局長

△式典にて式辞を述べるアスプリオン市長。倶知安とサンモリッツが今まで築いてきたさまざまな交流を、今後も続けていきたいと話してくれました。

1. 来町時の記念撮影
2. 鼓流の羊蹄太鼓でお出迎え
3. 50 年前に高橋町長に同行した新田さんから、アスプリオン市長へ花束の贈呈
4. 俱小の子どもたちからも、訪問団の皆さまに花束の贈呈
5. 議場において、アスプリオン市長から歓迎に対するお礼の言葉をいただきました
6. ウルス・ブーヘル駐日スイス大使 (右) とアニヤ・シーボルト・ブーヘル大使夫人

「たとえ国や文化は異なっているとしても、私たちは同じ考え、同じ目的、同じ志を持っています。姉妹都市という関係は、友情とも言える関係です。私たちの関係を強化するために倶知安に來られたことを誇りに思います。」
私たちは、50年の月日の中で、姉妹都市という行政的なつながりを越えて、友情を感じ合う関係へと至りました。サンモリッツとの友情は、倶知安にとって何よりの誇りです。

アスプリオン市長は式典において、次のように述べました。
「たとえ国や文化は異なっているとしても、私たちは同じ考え、同じ目的、同じ志を持っています。姉妹都市という関係は、友情とも言える関係です。私たちの関係を強化するために倶知安に來られたことを誇りに思います。」
私たちは、50年の月日の中で、姉妹都市という行政的なつながりを越えて、友情を感じ合う関係へと至りました。サンモリッツとの友情は、倶知安にとって何よりの誇りです。

国を越えて姉妹都市となった倶知安とサンモリッツ。アスプリオンサンモリッツ市長は、50年前に姉妹都市提携を結んだことを、最先端の協力関係」と称しました。
姉妹都市を結んだ昭和39年、日本・スイス間に姉妹都市は存在しませんでした。倶知安とサンモリッツが初の姉妹都市となったのです。そして今日、姉妹都市提携50年を迎えました。50周年を共に祝うため、サンモリッツから6名の訪問団が来町しました(写真)。
また、今年は日本とスイスの国交樹立150周年でもあります。28日に行った50周年記念式典には、大変嬉しいことにウルス・ブーヘル駐日スイス大使と、そのご夫人が来町し、共に祝ってくださいました。

**お互いの距離は遠くとも
心はとても近いところに**

今から50年前の昭和39(1964)年、倶知安とスイス・サンモリッツは姉妹都市となりました。約9千キロ離れている両都市にとって、国、文化、言葉など多くの違いがある中で、50年もの歴史を共に築き上げてきたことは、奇跡とも呼べるかもしれません。
5月27日、その奇跡を共に祝うため、サンモリッツから市長をはじめ6名の訪問団が来町しました。今月の特集では、50周年を共に祝った倶知安とサンモリッツについてお伝えします。



7. 50年の歴史で初めての周年記念式典

8. 共同宣言への署名

9・10. サンモリッツから、友情の印として盾をいただきました。サンモリッツのシンボルである太陽の下に、50年を祝う言葉が彫られています。

11. 倶知安からも記念品を贈呈しました。倶知安とサンモリッツは互いに同じもので、別模様のものをスイス大使館にも贈呈しました。

12・13. 式典後の歓迎レセプションは、役場職員を中心に練習してきたアルプホルンの音色から始まりました。

14～16. 歓迎レセプションでは民謡が披露されました。短い時間でしたが、歓談の時を過ごしました。

友情関係を次の未来へ

私たちはこれまで、共にさまざまな事業を行ってきました。スポーツ交流、文化交流、学生交流。節目の年を迎え、倶知安とサンモリッツの関係をさらに強化させるべく、次の内容で共同宣言を発表しました。

未来に向けて、友好の絆をより一層深めるための交流事業を推進することを、ここに改めて宣言します。

1 両都市は、日本・スイス間の最初の姉妹都市として、両国の友好に寄与することを目指します。

2 両都市は、これまでの学生交流をさらに深化させ、次代を担う国際的な人材の育成を共に目指します。

3 両都市は、互いの文化や慣習を尊重し、相互理解を深めるため、住民同士の積極的な交流を促します。

(一部省略)

具体的な内容はこれからですが、アスプリオン市長も、学生交流をこれまで以上に発展させていきたいと話しており、この共同宣言は、未来への確かな一歩となりました。

支え合い、支えられての50年

今回の50周年を祝い、ブーヘル大使から次のような祝辞をいただきました。

「友好を育むには、そのために働く人々が必要です。倶知安・サンモリッツの関係は、友好関係をさまざまな形で育んでいく素晴らしい例と言えます。この先、100年、150年と続いていくことを願っています。」

福島市長も、一人一人の交流の輪を広げ、友好の絆を引き継いで今日がある、と話していました。ブーヘル大使をはじめ、多くの人たちに支えられたからこそ、私たちは共に歩んでこられました。式典には100名を超える方々にご出席いただきました。多くの方と共に祝いできたことは、私たちにとって何よりも光栄なことだと思います。



最終日、役場前にて記念撮影



17



18



19



20



21



22



23



24



25

-3 日間の交流の様子-

17. 美術館見学 / 18. サンモリッツ大橋にて

19. 商店街散策。たくさんの方がサンモリッツ訪問団を迎えてくれました。

20・21. 文化体験 / 22. パークゴルフ

23. 三島さんの芝ざくらも見に行きました。

24. 樺山分校訪問。全校児童によるよさこいを披露してくれました。

25. 西小訪問。英語の授業と一緒にゲームをしました。

互いに触れ合い

心を通わせた2泊3日

サンモリッツ訪問団は27日、29日までの日程で来町しました。とても短い時間ではありましたが、さまざまな交流を行いました。

風土館・美術館見学。徳丸滋先生のアトリエ訪問（徳丸先生の絵は、これまでに何度もサンモリッツへ贈呈されています）。特別に稼働してもらったひらぶのゴンドラ搭乗。駅前商店街散策。茶道や書道などの文化体験。西小と樺山分校訪問。パークゴルフ体験。

サンモリッツの公用語はドイツ語です。通訳をばさんでいるとはいえず、言葉の壁がありました。しかし、2泊3日の日程の中で、サンモリッツの方々は笑顔を見せてくれました。言葉の壁を越え、私たちは確かに心を通わせ、楽しい時間を共有できていました。

「皆さまから温かいおもてなしを受け、本当に友人として温かく迎えていただきました。俱知安の人たち、特に子どもたちと触れ合えた時間は、感動のひと時でした。」

帰り際、ピロラ局長はこのような話してくれました。多くの方のご協力を得て進められた今回の交流事業。サンモリッツの方々に俱知安を満喫していただき、俱知安との友情を深めることができたのではないのでしょうか。

「皆さまのおもてなしの心は、私たちが学ばべきことだと思っています」

シャフナー局長が最後にこのように話してくれました。アスプリオン市長からは、7月にサンモリッツで行われる最先端スポーツセンター「Ovaveria」の開館式と、改修を終えたフォーラム「Paracelsus」の落成式へのご招待を受けました。町長や議長をはじめ、計23名の訪問団が7月にサンモリッツを訪問します。友情をさらに深めることはもちろん、サンモリッツの「トップ・オブ・ザ・ワールド」から、多くを学ぶことのできる訪問となることでしょう。